

北米及び日本現代詩の環境詩学による理論構築

環境人間学部 高橋 綾子

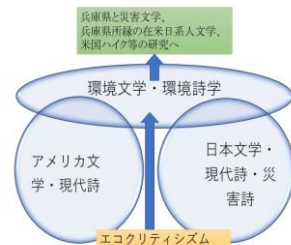


キーワード

アメリカ文学・文化、環境文学 環境詩学 エコクリティシズム アメリカ現代詩

研究概要

本研究は、英語圏、つまりアメリカ文学、様々なテキストにおける環境と人間の関係を探求する環境文学研究を基幹とし、環境問題と文学とをつなぐ試みである「エコクリティシズム」という文学手法を通して、人間が自然をどう捉え、どう向き合ってきたかを研究目的としています。地球規模で進む環境汚染、気候変動に対して、文学研究がいかに貢献できるか、という問題意識に基づいています。1956年から10年間京都で仏教を学びその成果を独自のエコロジー思想へと発展させた環境詩人ゲーリー・スナイダーの研究を行ってきました。アメリカ文学・文化研究を起点として、環境詩、英語俳句研究へと研究の幅を広げ、現在は日米環境詩の理論構築などを目指しています。



アピールポイント

英語圏で、1990年代終わり頃から、環境文学批評が構築されてきた。日本では原爆文学や公害に関わる文学である石牟礼道子作品に関するエコクリティシズムによる研究が進んできた。東日本大震災を巡る災害詩をエコクリティシズムによる検証を行い、理論構築を行っている。日米の現代詩人作品をエコクリティシズム及び、環境詩学(エコポエティクス)による検証も行っている。

応用分野

本研究は、アメリカ文学・文化を背景としながら、アメリカ現代詩、日本の災害詩、アメリカにおけるハイク等を射程とする。本県における災害文学、本県出身の在米日系人研究、アメリカにおけるハイクと本県との関りなどに研究範囲を広げることが可能です。